

3) コンディショニングの効果

供用後 3 年目のオオタカ、サシバの調査結果をまとめるとともに、過年度の結果との比較及び考察を行った。

(1) オオタカ

ア. 調査結果（供用後 3 年目）

■では、巣 No. 6 でオオタカの繁殖兆候が確認され林内からは幼鳥のものと思われる鳴き声が確認された。巣 No. 6 と計画路線との最短距離は■と、平成 24 年度に営巣が確認された巣 No. 4 と路線からの距離はほぼ変わらなかった。

オオタカの各つがいにおける確認状況の概況を表 3-3-1、写真 3-3-1 に整理した。また、確認状況の詳細を図 3-3-1、営巣地の状況を写真 3-3-2 に示す。

表 3-3-1 オオタカ巣 No. 6 つがいの確認状況の概況（供用後 3 年目）

つがい	確認状況
巣 No. 6	4 月に雌雄による営巣林への出入り、5 月に雄による排斥行動（対象はオオタカ若鳥）、6 月にヒナのものと思われる鳴き声、営巣林内への出入り、餌運び 2 例、7 月に幼鳥のものと思われる鳴き声及び餌運びが確認された。7 月に幼鳥と思われる声が確認され、繁殖に成功したものと考えられるが、巣立ち後の幼鳥は確認されておらず、周辺での分散過程等は不明であった。

写真 3-3-1 オオタカ ()

図 3-3-1 (1) オオオタカ繁殖及び出現状況 () (1/2)

図 3-3-1 (2) オオオタカ繁殖及び出現状況 () (2/2)

写真 3-3-2 営巣地の状況 () オオタカ No. 6 : 供用後 3 年目)

貴重種保護の観点から確認位置・記録等については公表しないこととしています

イ. 考察（供用後 3 年目及び供用後 3 年間の総括）

環境影響評価時に影響が考えられた[]は、工事着手前に巣が落巢したことにより、繁殖行動が確認されなくなった。その後、同一個体かは不明であるが、[]で新たに繁殖が確認されたものの、工事による繁殖への影響は及ばないと考えられたため、段階的な施工等は実施せず、工事や施設の建設にあたっては警戒色を用いない等の対策を行った。

落巢後、複数年に渡り路線近傍における繁殖行動は確認されなかったが、工事がほぼ終了した施工時の平成 22 年度より、[]の位置で繁殖または繁殖行動が新たに確認された。

上記、環境保全措置を実施したことにより、供用後（平成 22 年度以降）も継続して繁殖または繁殖行動が確認されており、鉄道施設の存在によるオオタカへの影響は低減できたものと判断する。

(2) サシバ

ア. 調査結果（供用後 3 年目）

■では、2 地点（巣 No. 12、No. 14）でサシバの繁殖兆候が確認された。巣 No. 14 は新たに確認された巣である。

各巣と計画路線との最短距離は、■、■であった。

2 地点で繁殖の兆候や使用したと考えられる巣が確認されたが、巣内のヒナや巣立ち幼鳥は確認されず、原因は不明であるが繁殖に失敗したものと考えられる。

サシバの各つがいにおける確認状況の概況を表 3-3-2 に整理した。また、確認状況の詳細を図 3-3-2、営巣地の状況を写真 3-3-3～4 に示す。

表 3-3-2 サシバ各つがいの確認状況の概況（供用後 3 年目）

つがい	確認状況
巣 No. 12	4 月に巣 No. 12 周辺で交尾 1 例、5 月に餌運び 3 例、6 月に餌運び 1 例が確認された。繁殖の兆候はみられ、6 月に抱卵が確認されたものの、7 月には幼鳥は確認されず、サシバの出現は激減した。以上のことから、繁殖は失敗したものと考えられる。
巣 No. 14	5 月にディスプレイ飛翔、6 月に餌運び 1 例、ディスプレイ飛翔が確認された。6 月に巣内が確認されたが、7 月には幼鳥は確認されず、サシバの出現は激減した。以上のことから、繁殖は失敗したものと考えられる。

図 3-3-2 サシバ繁殖及び出現状況 ()

写真 3-3-3 営巣地の状況 () サシバ No. 12 : 供用後 3 年目)

写真 3-3-4 営巣地の状況 () サシバ No. 14 : 供用後 3 年目)

貴重種保護の観点から確認位置・記録等については公表しないこととしています

イ. 考察（供用後 3 年目及び供用後 3 年間の総括）

■■■■■■で併せて実施している環境保全措置「4）止まり場の設置効果」の項で、総合的に考察する。

4) 止まり場の設置効果

供用後 3 年目のサシバの止まり場の利用状況に関する調査結果をまとめるとともに、過年度の結果との比較及び考察を行った。

ア. 調査結果（供用後 3 年目）

止まり場は、 の路線南側に 4 本設置されており、設置環境は水田と草地との境界である（写真 3-4-1）。

供用後 3 年目、止まり場を利用する個体は確認されなかった。

なお、施工時の平成 22 年度に 2 例の止まり場の利用が確認され（共にハンティング後、採食）、供用 2 年後の平成 24 年度に鉄道施設の架線の柱にとまるサシバが確認された（写真 3-4-2）。

写真 3-4-1 止まり場設置状況等

写真 3-4-2 サシバの利用状況

貴重種保護の観点から確認位置・記録等については公表しないこととしています

イ. 考察（供用後 3 年目及び供用後 3 年間の総括）

環境影響評価時に影響が考えられた[]は、繁殖への影響を及ぼさないように非繁殖期から工事を開始したが、繁殖期に工事区域に近接して繁殖が確認された。工事中にサシバの行動を監視したが、警戒行動等が確認されなかったことから、段階的な施工等は実施せず、サシバの視界から建設機械を隠すための目隠し板の設置（写真 3-4-3）や工事や施設の建設にあたっては警戒色を用いない等の対策を行った。鉄道の供用後も、北千葉道路事業が工事中であったことから、引き続き同様の環境保全措置を実施した。その結果、継続して繁殖または繁殖行動が確認された。

また、隣接する北千葉道路事業の調整池付近に止まり場を設置し、餌場環境の創出を図った。その結果、2 例ではあるが止まり場の利用が確認された。

上記、環境保全措置を実施したことにより、工事中から供用後 3 年目まで継続して繁殖または繁殖行動が確認されており、鉄道施設の存在によるサシバへの影響は低減できたものと判断する。

写真 3-4-3 目隠し板の設置

貴重種保護の観点から確認位置・記録等については公表しないこととしています